

畳スペース拡充型コーナー配置と使われ方

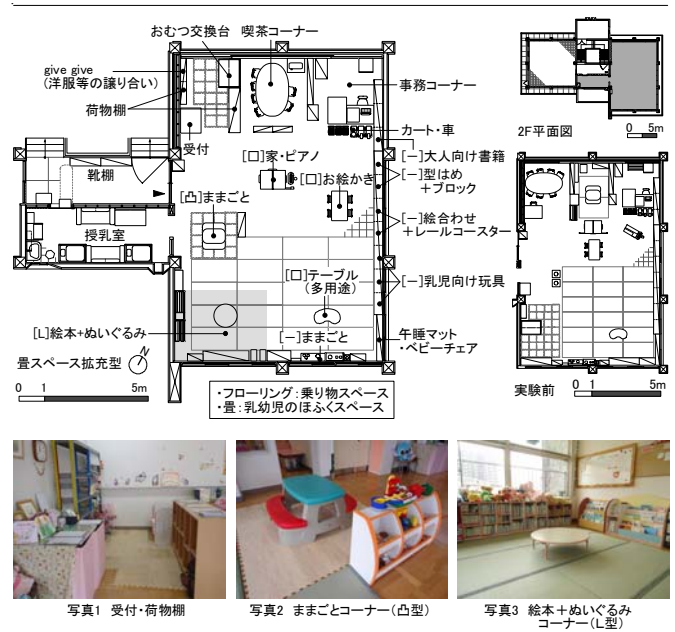
—子育て支援施設におけるコーナー配置の空間実験 その2—

子育て支援コーナー 親子行動分析 ワンルーム 畳スペース拡充型

準会員 ○岡崎 紗矢*
 正会員 伊藤 優里**
 正会員 山本 幸子***
 正会員 中園 真人****

表1 実験前との変更箇所

| 変更箇所 | 実験前 | 畳スペース拡充型 |
|------------|--|--|
| 畳スペース | 畳マットの枚数・位置 縦:6枚、横:3枚 東側と南側の玩具棚に接する形で角に配置 | 縦:5枚(一部4枚)、横:4枚 南側全面に配置 |
| 畳スペース | 乳児向けコーナー(直線型) フローリングスペースや畳スペースの棚に、複数の玩具が区分けされずに配置されている | 畳スペースを主に乳児用のほふくの場や遊びコーナーとして設定 乳児向け玩具の横に午睡マットとベビーチェアも配置 |
| 畳スペース | 絵本コーナー(L型) 他の玩具と同一の場所に置かれているため、他の遊びと重複して静かに読むことができず、ほとんど利用されていない | スタッフが絵本を選定し、畳スペースの角にL型のコーナーを設定 丸テーブルを常設し、絵本の読み聞かせの際などの利用を想定 |
| フロアリングスペース | 家・お絵かきコーナー(鳥型) 中央に家とお絵かきコーナーが設置されているため、カートや乗り物遊びをする場所が十分に確保されていない | 中央に家、棚の前にお絵かきコーナーを移動 家の周囲にカートや乗り物で回ることのできるスペースを確保 |
| フロアリングスペース | ままごとコーナー(凸型) 授乳室とプレイルームとの間に仕切りがないため、カートや乗り物遊びの際に、授乳室まで遊びが拡大 | 授乳室の前にマットを敷き、ままごとコーナーを設置することで、授乳室への侵入を防止 |
| フロアリングスペース | 型はめ・ブロックコーナー(直線型) 型はめと積木・ブロックは同一の場所になく、東側と南側の棚に分けて配置 | 事務コーナー前のスペースを型はめ・ブロックコーナーとして設定 フロアリングスペースは年齢の高い子ども向けの場所に |
| フロアリングスペース | 荷物置き場・おもむつ交換台 畳スペースの横に設置されているため、遊び場の延長として利用される 受付テーブルから離れているため、荷物を置くまでの移動距離が長い | 受付奥に移動 実験前に喫茶コーナーとままごとコーナーの境に設置していた棚を壁際に移動して荷物棚として利用 |
| フロアリングスペース | 喫茶コーナー プレイルームと並行にテーブルが設置されているため、座る場所によっては遊ぶ子どもの様子を確認しづらい場合がある | フロアリングスペース北側の中央に移動し、プレイルームと垂直に設置 コーナー入口に棚を設置し、子どもが入ってくるのを防止 |



凡例)コーナー…□:鳥型(2)、凸:凸型(1)、準:準コーナー…L:L型(1)、—:直線型(5)
 注)遊び場以外のコーナー、棚等については「[]」を付せずに示している。

図1 コーナー配置

1. 序論

前報では、ワンルーム型子育て支援施設の現状のコーナー配置の特徴と課題点について論じた。その結果を基に、本報と次報においてコーナー配置を変更して空間実験を行う。

本報では、実験前に整理した課題点をふまえ、畳スペースを拡充したプランに変更し、利用者の行動変化から実験前との比較を行う。

2. 調査概要

調査は、山口市にある「子育て交流広場 ちゃ☆ちゃ☆ちゃ (以下ちゃ☆ちゃ☆ちゃ)」にて実施し、空間実験の準備として施設スタッフの協力のもと、施設内の家具及びコーナー配置を変更した。調査は、利用者(親子)及びスタッフを対象とした使われ方調査を実施した。終日10分間隔で平面図に滞在場所・動線・行為内容の記録及びデジタルカメラ・ビデオカメラによる撮影を行った。調査期間は2014年11月11~14日の4日間である。

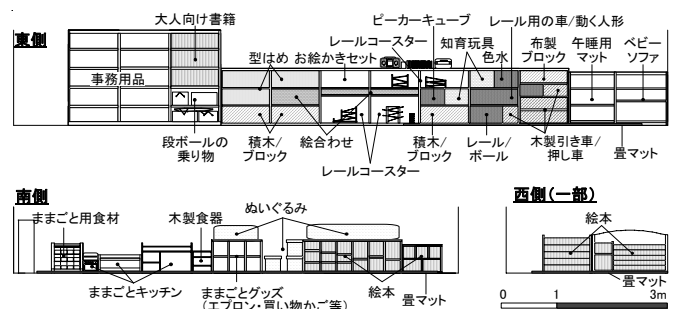


図2 玩具詳細図

3. 実験前との変更箇所

3-1 遊びコーナーの変更箇所

実験前との変更箇所について表1に示す。まず、空間の大きな変化としては畳マットの枚数及び位置である。実験前には、縦:6枚、横:3枚の計18畳の畳マットが、配置されていたが、変更後は縦:5枚(一部4枚)、横:4枚の計19畳に増やし、南側全面に配置した(図1)。これにより、プレイルームが北側と南側に明確に区分された。

畳スペースの遊びコーナーの変更箇所は 2 ヶ所あり、1 つ目は乳児向けコーナーである。実験前には棚に、複数の玩具が区分されずに配置されていたため、変更後は畳スペースを乳児スペースと位置づけ、知育玩具や音のなる玩具等を中心に配置した(図 2)。そして 2 つ目は、絵本コーナーである。実験前には、他の玩具と同一の場所の配置されていたため、静かに読み聞かせを行うことが困難であった。そのため、施設南側の隅に L 型に本棚を設置し、他の遊びと場所を区分した。

次にフローリングスペースの遊びコーナーの変更箇所は 3 ヶ所あり、1 つ目は家とお絵かきコーナーの位置である。実験前には、フローリング中央に並べて配置されていたため、カートや乗り物遊びを行うスペースが十分に確保されていなかった。そのため、中央に家、棚の前にお絵かきコーナーを移動させることにより、家の周囲に乗り物で回ることのできるスペースを確保した。2 つ目は、ままごとコーナーである。授乳室とプレイルームの間には仕切りがなく、乗り物遊びが授乳室にまで及ぶ光景がよく見られた。そのため、授乳室の前にマットを敷き、テーブルとままごとセットによるままごとコーナーを配置することにより、授乳室への侵入を防止する役割も果たすと考えられる。また、フローリング中央の家との一体的な利用を想定し、ままごとセットは家に面して配置している。そして 3 つ目は、型はめ・ブロックコーナーである。実験前は明確に場所が区分されていなかったため、事務コーナー前のスペースを型はめ・ブロックコーナーとして設定した。

3-2 遊びコーナー以外の変更箇所

遊びコーナー以外の変更箇所は 2 ヶ所あり、1 つ目は荷物置き場・おむつ交換台の位置である。実験前には畳スペースの横に設置されていたため、遊び場の延長として利用されることが多かった。そのため、受付奥のスペースに移動し、受付後のスムーズな荷物の片づけを促すとともに、遊びスペースとの区別を行った。

2 つ目は喫茶コーナーの位置である。実験前には、施設北側の隅にプレイルームと並行にテーブルが配置されていたため、座る場所によっては子どもの様子を確認しづらいという問題点があった。そのため、北側中央に移動し、プレイルームと垂直にテーブルを配置した。

4. 施設の利用形態

4-1 利用者の滞在パターン

調査期間中のスタッフ及び利用者数を表 2 に示す。なお調査期間のうち、11 月 13 日のみ 14:00~16:00 の短時間開所であったが、他の 3 日間は通常通り 10:00~16:00 の開館であった。利用者は 1 日に平均 16 組が来所し、親・子合わせて 34 名が利用していた。また、11 月 13 日は 2 時間の開所であったものの 7 組の利用があり、時間

表 2 調査期間中のスタッフ・利用者数

| 調査日 | ①利用者 | | | 利用者 合計人数 | ②スタッフ | | | | ①② 合計人数 |
|-----------|------|------|------|-------------|-------|----|---|-----|------------|
| | 組数 | 親子 | | | 勤務 | | | 勤務外 | |
| | | 親 | 子ども | 午前 | 午後 | 終日 | | | |
| 11月11日(火) | 21 | 21 | 24 | 45 | 1 | 1 | 1 | 0 | 48 |
| 11月12日(水) | 16 | 16 | 19 | 35 | 1 | 1 | 1 | 0 | 38 |
| 11月13日(木) | 7 | 7 | 7 | 14 | | 1 | 1 | 1 | 17 |
| 11月14日(金) | 20 | 20 | 22 | 42 | 1 | 1 | 1 | 1 | 46 |
| 平均 | 16.0 | 16.0 | 18.0 | 34.0 | 0.8 | 1 | 1 | 0.5 | 37.25 |

注)11月13日のみ、14:00からの開館

表 3 利用者の滞在パターン

| Type | 滞在パターン | | | 調査日 | | | | 平均 |
|------|--------|----|----|---------|----------|---------|----------|------------|
| | 午前 | 昼食 | 午後 | 11月11日 | 11月12日 | 11月13日 | 11月14日 | |
| 1 | | | | 1:07(9) | 1:09(11) | | 1:12(2) | 0:52(5.5) |
| 2 | | | | 1:32(8) | 1:33(4) | 1:29(7) | 1:38(14) | 1:33(9) |
| 3 | | | | 2:01(4) | 0 | | 1:36(1) | 0:54(1.25) |
| 4 | | | | 0 | 0:26(1) | 0 | 0 | 0:06(0.25) |

注1) 図中の時間は、各パターンの平均時間、()内の数字は利用者の組数を示す。
注2) 11月13日のみ、14:00からの開館であった。

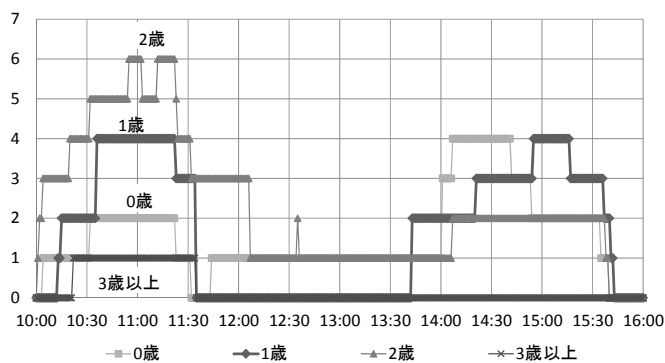


図 3 子どもの年齢別人数推移 (11 月 11 日)

単位でみると他の日と同程度の利用者が来所していた。

次に、利用者の滞在パターンを表 3 に示す。滞在パターンは、①午前中滞在、②午後滞在、③昼食前から午後にかけて滞在、④短時間滞在の 4 つに区分された。調査期間中は、実験前と同様に昼食を施設でとらないタイプ 1・2 の利用者が大半を占め、1 時間から 1 時間 30 分程度滞在していた。また、タイプ 3 は合計 5 組と少なく、2 時間前後の滞在がみられた。

4-2 子どもの年齢別人数推移

本節からは、4 日間の調査期間のうち利用者数の多かった 11 月 11 日に着目して分析を行う。子どもの年齢別人数推移を図 3 に示すが、午前中には 2 歳児が最大 6 名と最も多く滞在しており、次いで 1 歳児が最大 4 名と多い。午後には 0~2 歳児が 2~4 名と同程度滞在していたが、3 歳以上の子どもは午前中に 1 名のみで昼食以降の滞在はみられなかった。

5. 施設の利用方法

図 3 を基に、0~3 歳の各年齢の子どもが滞在していた午前中の自由遊びを中心に利用方法の分析を行う。



図4 受付

5-1 来館・受付

来館・受付の様子を図4に示す。利用者は来所すると、入口横に設置されているテーブルで利用者名簿に記入をして受付を行う。その後、受付奥に設けられた荷物置き場へと移動して荷物を置く。複数の利用者が一度に来所しても、他の利用者が受付を行っている間、先に奥の荷物置き場に荷物を置いて待機するなどスムーズに受付が行えるようになった。

5-2 自由遊び

自由遊びの様子を図5に示す。ここでは、主に10:00～11:00の遊びについて分析する。

1) 10:00～10:10(利用者：1組)

親が受付を行っている間から子どもはフローリングスペースのままごととコーナーで遊び始める。スタッフは、事務コーナーに加え、喫茶コーナーも利用して事務作業を行う。

2) 10:10～10:20(利用者：3組)

初めて施設を訪れた利用者が1組いたため、喫茶スペースに設置されたテーブルを利用して、スタッフが施設利用に関する説明を行う。その後、他の利用者に対してスタッフから紹介をすることで、利用者同士の交流を促す。

3) 10:20～10:30(利用者：5組)

畳スペースに4組が滞在しており、子どもは棚から好きなおもちゃを選び、親の横で遊ぶ。ソラマメテーブル・丸テーブル共に利用されている。主に、親子での交流が多くみられる。

4) 10:30～10:40(利用者：6組)

フローリングスペースでは、カートで家の周りを回って遊ばれていた。親は主に座って見守りっていた。絵本コーナーにおいても子どもの選んだ絵本を親が読み聞かせる光景がみられた。

5) 10:40～10:50(利用者：10組)

フローリングスペースのお絵かきコーナーにおいて、3組の利用がみられた。お絵かきセットとの距離が近くな

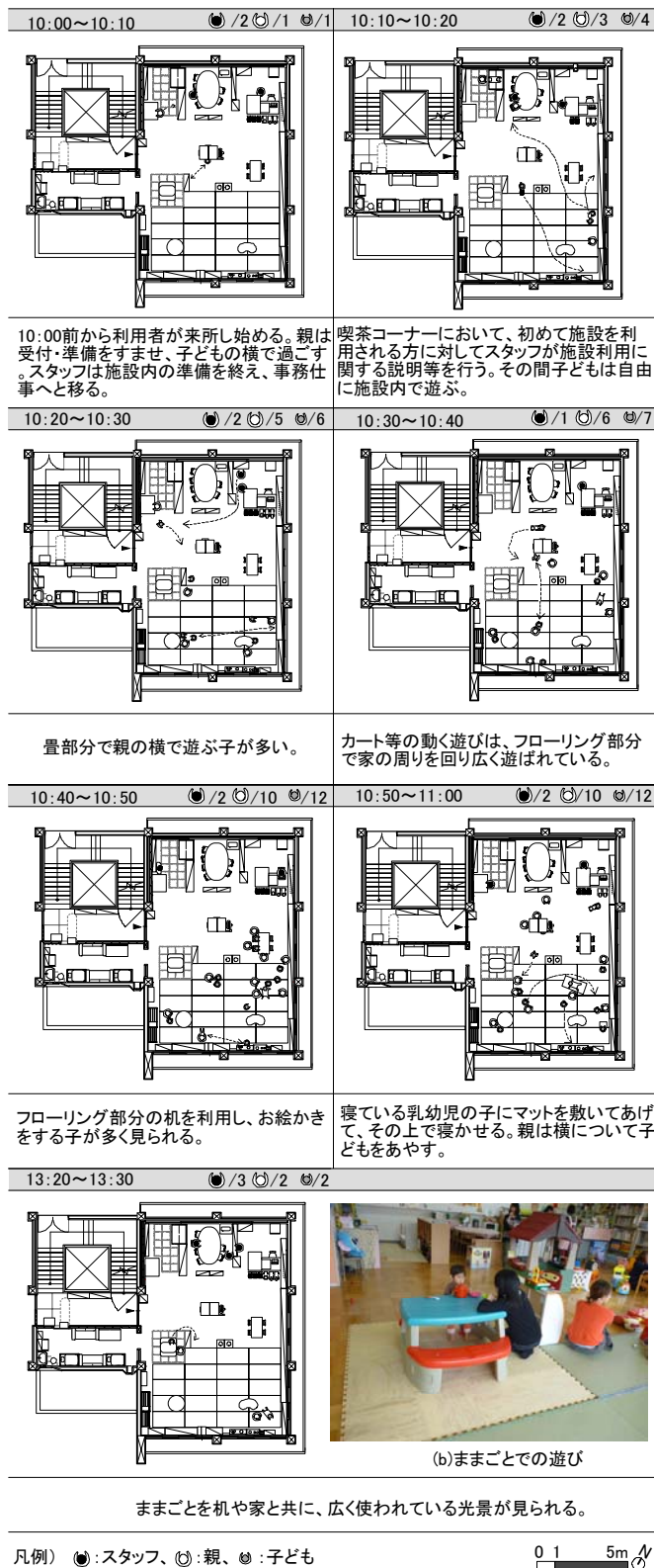


図5 自由遊び

ったため、準備・片づけがスムーズに行われていた。

6) 10:50～11:00(利用者：10組)

ままごとコーナー・ブロックコーナー・絵本コーナー・乳幼児向けコーナーの4か所に分かれ、施設全体に利用者が滞在している。また、畳スペースでは午睡マッ

トに乳児を寝かせて、親が横であやす様子もみられた。

7) 13:20~13:30(利用者：2組)

授乳室前のままごとコーナーとフローリング中央に設置された家が連携して利用され、広い範囲でままごと遊びが行われている。

5-3 昼食

昼食の様子を図6に示す。実験前と同様におもちゃの片づけを行った後、昼食がとられる。畳スペースに常設されたテーブルが2脚に増えたことから、ゆとりを持って座ることが可能である。スタッフについても同様に喫茶スペースにおいて昼食を利用者と同時にとる。

5-4 喫茶

喫茶の様子を図7に示す。実験前と同様に昼食後喫茶が行われる。喫茶コーナーの周囲には実験前よりも低い棚を配置したことで、施設全体を座ったまま見渡すことができる。また、コーナー入口には棚と仕切りを設置し、子どもの侵入を防いでいる。

6. 結論

本論で得られた知見は以下の通りである。

- 1) 畳スペース拡充型プランでは、畳マットの枚数を増やし、南側全面に配置を変更した。遊び場として畳スペースは乳児スペースと位置づけ、周囲の棚には知育玩具や音のなる玩具等を中心に配置した。また施設南側の隅にL型の絵本コーナーを新設した。フローリングスペースにはままごと・ブロック・お絵かきコーナーを設定し、大型の家を中央に配置してその周囲を乗り物で回れるようにした。
- 2) 荷物置き場・おむつ交換台を受付奥のスペースに移動し、受付後のスムーズな荷物の片づけを促すとともに、遊びスペースと区別した。喫茶コーナーは、北側中央に移動し、プレイルームと垂直にテーブルを配置して子どもの様子が確認しやすいようにした。
- 3) 実際の使われ方では、L型の絵本コーナーは静かに絵本の読み聞かせが行える場として機能し、型はめ・ブロックコーナーも明確に区分されたことによって利用率が上がった。また、授乳室前に設置したままごとコーナーにより、授乳室への乗り物遊びが減少した。そして、荷物置き場・おむつ交換台も遊びスペースとの区別を行ったため本来の目的のみで利用されるようになった。喫茶コーナーでは、コーナー入口に低い棚を設置したことで、施設全体を座ったまま見渡せ、子どもの侵入も防ぐことが出来るようになった。



図6 昼食



図7 喫茶

謝辞

施設のコーナー配置の変更及び使われ方調査にご協力いただきました、「子育て交流広場 ちゃ☆ちゃ☆ちゃ」のスタッフ及び利用者の方々に深く謝意を表します。

参考文献

- 1) 横山勉：多用途空間にみる幼児施設の空間構成に関する研究 (7) 遊びとコーナー（保育空間）の関わり、日本建築学会北陸支部研究報告集、第43号、pp.369-372、2000.7
- 2) 山田恵美、佐藤将之、山田あすか：自由遊びにおける園児の活動規模と遊びの種類およびコーナーの型に関する研究、日本建築学会計画系論文集、第74巻、第637号、pp.549-557、2009.3
- 3) 村上博文：乳児保育室の空間変成と"子ども及び保育者"の変化--K 保育所 0 歳児クラス:自由遊び時間におけるアクションリサーチ、東京大学大学院教育学研究科紀要、第49巻、pp.21-32、2009
- 4) 伊藤優里、山本幸子、吉岡絢香、中園真人：民家を活用した「吉敷つどいの広場 楽楽楽」の使われ方-既存建築を活用した子育て支援拠点整備に関する研究 その4-一、日本建築学会中国支部研究報告書、第35号、pp.573-576、2012.3

* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生
 ** 山口大学大学院理工学研究科
 DC2・日本学術振興会特別研究員
 *** 筑波大学システム情報系 助教・博士(工学)
 **** 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.
 ** DC2., JSPS Research Fellow., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.
 *** Assistant Prof., Faculty of Engineering, Information and Systems., University of Tsukuba., Dr.Eng.
 **** Prof., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr.Eng.